



①



②



③



④



⑤



⑥

①-④ Good Bubble Fes15 (現場からの発信) ⑤2/21 セミナー講師 藤田孝典氏 ⑥3/1 フォーラム講師 稲葉剛氏 (県社協ニュース)

岡山県 社会福祉



特 認知症高齢者等に優しい
集 地域づくりに向けて

p2

- 共同募金p6
- 県社協ニュースp7
新役員就任・人事異動のお知らせ
自立支援ネットワークフォーラム開催
地域包括ケアシステムセミナー 他
- 現場からの発信p10
音楽×アート×障がい者福祉をコンセプトにした
音楽フェス
- 「ふくし」の仕事人たちp12



社会福祉法人 岡山県社会福祉協議会
<http://www.fukushiokayama.or.jp>



この機関紙は、共同募金の配分金によって発行しています。

昭和26年12月4日 第三種郵便認可 平成27年4月10日発行(2・4・6・8・10・12月の各10日発行)



認知症高齢者等に優しい地域づくりに向けて 新オレンジプランについて語る

2025年には、認知症の方が約700万人（65歳以上の高齢者の約5人に1人）になると推計されており、政府は2015年1月27日に省庁横断で取り組む総合戦略として「新オレンジプラン（認知症施策推進総合戦略）」を打ち出しました。これは、厚生労働省が2013年度から進めている「オレンジプラン（認知症施策推進5か年計画）」を発展させたもので、2015年度から戦略に基づく施策が進められていくことになりました。今回の特集では、県内の関係者の方にお集まりいただき、現状と課題を踏まえながら、新オレンジプランについて考察することといたします。



司会：まずは、国家戦略として打ち出された新オレンジプランについて兼信課長よりご説明をお願いします。

兼信：新オレンジプランとは認知症に関する初の国家戦略です。岡山県においても、認知症高齢者の方が平成24年には62000人いると推定されていましたが、平成37年には約1.4倍の87000人になると推定されています。その中において、認知症の方の意思が尊重され、でき

る限り住み慣れた地域のよりよい環境で自分らしく生きていける社会の実現を目指して、国を挙げて認知症対策の策定に取り組むこととなった次第でございます。策定にあたっては、認知症の方やその家族、関係者など幅広い方の意見を聞いており、認知症の方やその家族の視点に立ったものになっています。認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進など、7つの柱に沿って各施策を推進しています。県では、認知症対

策の拠点として、県内6カ所に認知症疾患医療センターの設置、認知症に関する各種研修の実施などに取り組んでいます。

策の拠点として、県内6カ所に認知症疾患医療センターの設置、認知症に関する各種研修の実施などに取り組んでいます。



認知症の人と家族の会
岡山県支部 代表
妻井 令三 氏

司会：それでは、新オレンジプランが国家戦略として出されたことに対して、それぞれの立場でどのように受け止められたか、またはどこに注目をしているかお話ください。

妻井：2014年というのは認知症問題でエポックの年になると思っています。新聞紙面では、認知症の男性が徘徊中に起こした列車事故の判決の問題であるとか、オレオレ詐欺など特殊詐欺の被害であるとか、行



新寿会 きのこ老人保健施設
副施設長

宮本 憲男 氏

方不明老人とか、今や認知症受難時代といった時世になっています。行政の対応を含めて、たいへんだという認識が深まった年だったと思います。先程、課長が言われたように、団塊の世代が700万人認知症になるといわれていますが、MCI（軽度認知障害）を入れると1000万人を超える時代になります。65歳以上の高齢者の3分の1に近いわけですが、ライフステージが変化しているという認識を持たなければなりません。

宮本：きのこエスポール病院ができ、去年で30年でした。当時は、地域や日本全体で認知症の理解がほとんどなかった時代でした。きのこエスポール病院でもオープンした当

初は、「ぼけの病院」に行っている
と周りにわかってしまうという理由
で、送迎車に施設の看板をつけて来
るなど言われました。それがここ近
年では、そういったことが一切ない、
周りに病院に行っていると知られる
ことに抵抗がないようになりました。
それだけ社会が成熟していったのだ
と思います。社会の中で認知症の理
解がだいぶ深まっており、新オレン
ジプランではより強力にしていこうと
いうことは重要な方針であると思っ
ます。あと、7つ目の柱の「認知症
の人やその家族の視点の重視」とい
うところですが、認知症の人と我々
介護者の視点というのは違う部分が
あるわけですが、やはり認知症の方
の視点に立っていかないと、うまく
噛み合わないということになります。

初は、「ぼけの病院」に行っている
と周りにわかってしまうという理由
で、送迎車に施設の看板をつけて来
るなど言われました。それがここ近
年では、そういったことが一切ない、
周りに病院に行っていると知られる
ことに抵抗がないようになりました。
それだけ社会が成熟していったのだ
と思います。社会の中で認知症の理
解がだいぶ深まっており、新オレン
ジプランではより強力にしていこうと
いうことは重要な方針であると思っ
ます。あと、7つ目の柱の「認知症
の人やその家族の視点の重視」とい
うところですが、認知症の人と我々
介護者の視点というのは違う部分が
あるわけですが、やはり認知症の方
の視点に立っていかないと、うまく
噛み合わないということになります。

司会：サポーターの養成やグループ
ホームの制度化が、認知症の理解や
効果的な認知症ケアの促進に繋がっ
てきたわけですが、兼任課長はこれ
までの取組みと今後の課題について
どう思われていますか。

兼信：かかりつけ医、認知症サポー
ト医の養成に取り組み、医療的な部
分ではたいへん進んでおります。し
かし、今回の新オレンジプランにも
書いていますが、そういった方々に
どうやって活躍していただくか、こ
こが大きな課題かなと思っています。
また、厚労省だけではなく、いろん
な省庁がありますが、横断的に対応
しています。とても意義深いことだ
と思っていて、認知症の方を支える
ことが地域や国の有り様を変えてき
ている、このことを意識して対応に
あたらなければいけないと思います。



岡山県健康推進課
課長

兼信 定夫 氏

司会：では、実際の取組みの中でど
ういった課題があるのかをお話いた
だき、その上でこの新オレンジプラ
ンには何が必要かということを考え
ていきたいと思えます。

妻井：一番の問題は、認知症への偏
見だと思えます。皆が認知症の人を
支える風土ができたらいなと思っ
ます。やっかいな人を保護しなけれ
ばならないという追い込まれた形で
のケアではなくて、認知症になるこ
とも覚悟した上で堂々と生きましょ
うよ、とこういう時代が来ることが
理想です。偏見を取り除いて、人間
が生きるというステージを皆で支え
るんだという前向きな姿勢で認知症
の問題は考えた方がいいと思ってい
ます。
宮本：一般の方にも認知症の研修を
行うのですが、来られる方と来られ
ない方の差があり、働き盛りの方に
来てほしいが、どうしても仕事で来
ることができない。社会全体で認知
症の人を支えるのであれば、そのど
うしても来られない方々に対してど
のように啓発していくかが、一つの
課題ですね。また、施設の利用者の方
が地域に帰って、地域でその人を



司会：岡山県社会福祉協議会
福祉経営支援部
部長 岡 智明

見守っていくという考え方はいいのですが、課題としては地域に受け皿がないのに、地域に帰っていいのかということがあります。地域の人が少ない過疎地もあります。地域に帰るといふ考え方であれば、認知症専門のヘルパーさんを養成しなければいけないのではないかと思います。妻井：オレンジプランの基本は、施設から地域に帰すというように言われていますが、地域に帰っても家族が近くにいない現代では、近隣の資源がどれだけあるのか問われているというように、思います。宮本さんが言われたように認知症専門のヘルパーやコーディネーターなど、市町村直轄の専門職を置かなければいけないと思います。既に市町村で工夫

して頑張っているところもあります。そういう頑張っている市町村を励まして、モデルをつくるくらいのことをしていただければいいと思います。

司会：それぞれの立場から課題をお話いただきましたが、兼信課長、これから幅広い関係者が認知症施策に関わっていかねばいけません。この点はいかがでしょう。

兼信：認知症の方が地域で暮らす場合、そういう方々を支える仕組みとして、認知症初期集中支援チームというものがあります。多職種の専門家たちが、まず始めに地域の認知症の方のケアに関わっていく仕組みで、これからの地域での認知症ケアの鍵になると思います。

妻井：確かに、新オレンジプランの成否を決める鍵は、認知症初期集中支援チームであるだろうと考えています。人口比に対して何チーム必要なのか、各市町村が具体的な計画を持たなければいけないと思います。

司会：初期の段階で福祉医療が連携して地域の中でどう支えていくかということがこれからの鍵になっていきますね。宮本さんは実際地域でのケアをされていますが、この医療福祉の連携についていかがでしょうか。

宮本：医療介護の多職種が集まって研修に参加しました。医療と介護は今まで全く接点がなく、何かを協働で、ということが難しかったのですが、そのように研修という場でお互い顔見知りになるということは非常に助かります。研修がきっかけで、多職種のチーム笠岡として動くことができるような体制を作ることができるといったのも、オレンジプランの効果が高いというように考えます。

司会：多職種の連携を進める中で、地域によって資源に格差があるという課題があります。医療・福祉の資源について、今後どのような地域の資源の整備が必要か、この点についてはいかがでしょう。

兼信：認知症ケアパス、地域ケア会議、先ほどもお話のありました認知症初期集中支援チーム、これらが新オレンジプランによって促進されてくるかと思えます。ただ、いずれにしても認知症の専門的な知識を持つ方が増えないとできませんので、全体のポトムアップの意味で、今後認知症に関する研修を行っていきたいと思っています。それから、認知症サポーターになって各地域で頑張っている事例、認知症力アップの事例など、いろんな事例を集めて紹介していくこともやっていきたいなと、今までのお話を聞いて思いました。それから、今日の間でもそうですが、いろんな立場の方が集まってそれぞれの思いや気づきを交換できるような場をつくっていただければいいなと思えました。

司会：それでは最後に、それぞれの立場から抱負、あるいは読者への提言をしていただければと思います。

宮本：新オレンジプランに対しては、

非常に効果がある、というように思っています。一昔前に比べると、認知症に関する知識が浸透しつつあるのかなと思います。国がこのように入口―ガンをあげているんですが、後は県単位でももう少し具体的な方針を示していたらいい、岡山モデルをつくってもいいんじゃないかなと思ってます。そのくらい、地方で主導権を持ってやっていかなければいけない時代が来たんじゃないかと思えます。認知症の人が安心して暮らせる、モデルをつくっていただきたいと思えます。ただ、県がとか国がとか言うのではなく、一丸となって、住民あるいは専門家一人ひとりが責任を持ってやっていかなければいけないと、新オレンジプランで言われているように思います。

妻井：認知症ケアに関わることは人類にとって非常に大事なステージで、認知症ケアに向き合うことで、自身の人生も変わるといっても含めて、認知症問題を考えていただけたらなと思っています。また、多職種での連携をつくっていく時代にな

っています。岡山県でも、連携については、確かな手ごたえが各地域でできてきている。それから宮本さんの所のような専門職の成長が、確かな手ごたえになってきている。やはり、地域での連携、専門職の成長を応援してくれるような施策のバックアップが必要です。新しい地域づくり、職種づくりをしていく中で、本当の連携を作っていけば、認知症になっても生きていてよかったなあというステージができるかもしれません。岡山県には優れた資源があります。これらをどう活かすかが課題かなと思っています。

兼信：認知症の方やその家族を地域全体で支える体制、これを構築していくことは非常に重要なことだなと今日のお二人のお話を聞いての感想です。地域全体で支える体制を作る中で、認知症サポーターの数も増えてはいるんですが、まだまだ理解が不足している部分もあるのかなと思います。県としても、認知症に関する普及・啓発をさらに進めていきますので、認知症サポーターを始め、

そういったものに県民の方に、ぜひとも参加していただけたらと考えています。認知症の人に優しい地域づくり、これは行政だけではなかなか実現できないものだなと思えました。県民の皆様、関係団体皆様の力、これが不可欠ですので、認知症への理解を深め、それぞれがそれぞれの役割を果たしていく必要があります。後とも協力していただきたいと思います。

新オレンジプランの基本的な考え方

認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指す。

七つの柱

- ① 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- ② 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- ③ 若年性認知症施策の強化
- ④ 認知症の人の介護者への支援
- ⑤ 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- ⑥ 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデル等の研究開発及びその成果の普及の推進
- ⑦ 認知症の人やその家族の視点の重視

赤い羽根共同募金



岡山県共同募金会

平成26年度の「共同募金運動」ならびに「歳末たすけあい運動」につきましては、県民の皆様より温かいご支援、ご協力を賜り、誠にありがとうございました。概数ではございますが、下記のとおり、平成26年度の募金実績をご報告いたします。

共同募金運動

県内の社会福祉施設や福祉関係団体、各市町村社会福祉協議会やボランティア団体・NPO等の活動費として有効に活用させていただきます。

● 募金総額 ●

288,533,354円

歳末たすけあい運動

県内の福祉関係団体の活動費や、障がい者共同作業所の備品整備費として有効に活用させていただきます。

● 募金総額 ●

募金総額

70,663,790円

地域歳末たすけあい

64,199,682円

NHK歳末たすけあい

6,464,108円



「福祉の接遇セミナー」開催中！

福祉施設での各種研修は

Ai あい社会保険労務士法人

☎ 0863-81-5634

<http://aisr.or.jp/>

あい社会保険労務士法人 検索

特定社会保険労務士 佐藤起世子

〒706-0024 玉野市御崎 2-3-13
就業規則・労務管理のご相談もお受けいたします



●各種看板・サイン・POP・展示装飾・デザイン●

広告美術 企画-製作

美術工房



社団法人 日本ディスプレイ業団体連合会会員

TEL 086-271-4410 (代)
FAX 086-271-4412

〒703-8251 岡山市中区竹田 17-13

岡山県社会福祉協議会 新役員就任のお知らせ

平成27年3月20日に開催された評議員会において、新しい役員が選任されました。
また、平成27年4月1日開催の理事会において、正副会長が選任されましたので、お知らせいたします。

役職名	氏名	所 属	役職名	氏名	所 属	役職名	氏名	所 属
会 長	山岡 治喜	学識経験者	理 事	藤本 道生	(社福)岡山県共同募金会	理 事	阪田 宗道	(社福)井原福祉会
副会長	財前 民男	(社福)クムレ	〃	藤田 勉	(公財)岡山県身体障害者福祉連合会	〃	小泉 立志	(社福)鶯園
〃	内田 通子	(社福)岡山市社会福祉協議会	〃	松尾 武司	(公財)岡山県老人クラブ連合会	〃	森定 茂美	(社福)恵愛会
〃	中原 明	岡山県民生委員児童委員協議会	〃	阪本 文雄	(社福)山陽新聞社会事業団	〃	伯野 春彦	岡山県保健福祉部長
常務理事	平松 卓雄	学識経験者	〃	石川 紘	(公社)岡山県医師会	監 事	井上 信二	
理 事	虫明 正雄	(社福)倉敷市社会福祉協議会	〃	米良 重徳	(NPO)岡山NPOセンター	〃	吉松 裕子	
〃	小山 了	(社福)津山市社会福祉協議会	〃	中川 初美	(一社)岡山県婦人協議会			

平成27年度 岡山県社会福祉協議会 人事異動のお知らせ

異 動			4月1日付		
新所属・職名	氏名	旧所属・職名	新所属・職名	氏名	旧所属・職名
正規職員			正規職員		
事務局長(兼務 運営適正化委員会局長)	保坂 邦夫	次長(兼務 運営適正化委員会局長)	地域福祉部・生活福祉資金班	主事 近藤 佳恵	福祉経営支援部・主事
次長(兼務 総務企画部長)	重 實 良 香	総務企画部・部長	福祉経営支援部・福祉人材センター	主事 大石 祥加	地域福祉部・主事
次長(兼務 地域福祉部長)	山本 茂樹	地域福祉部・部長	福祉経営支援部・福祉人材センター	主事 林 武文	地域福祉部・主事
生活支援部 (兼務 地域生活定着支援センター所長)	部 長 濱 純子	福祉経営支援部・部長	生活支援部・地域生活定着支援センター(兼務 運営適正化委員会)	主事 小武守敬子	総務企画部付・主事
福祉経営支援部 (兼務 福祉人材センター所長)	部 長 岡 智明	福祉経営支援部・副部長	嘱託職員		
総務企画部	副部長 浅原 義充	総務企画部・主幹	福祉経営支援部・福祉人材センター	書記 松岡 明奈	(新規採用)
地域福祉部	副部長 吉田 光臣	地域福祉部・主幹	解 職 3月31日付		
福祉経営支援部 (兼務 福祉人材センター副所長)	副部長 大森 治美	生活支援部・主幹	氏名	旧職名	
生活支援部・生活支援班	主 幹 山下 泰三	地域福祉部・主幹	平松 卓雄	事務局長事務取扱	
地域福祉部・生活福祉資金班	主 幹 中村 勝義	福祉経営支援部・主査	退 職 3月31日付		
福祉経営支援部・経営支援班	主 幹 木村 真悟	福祉経営支援部・主査	氏名	旧所属・職名	
地域福祉部・地域振興班	主 査 奥山 勝之	生活支援部・主査	中川 芳子	生活支援部・部長(定年退職)	
地域福祉部・生活福祉資金班	主 任 三宅 圭子	地域福祉部・主事	國末 知宏	地域福祉部・書記	
福祉経営支援部・経営支援班	主 任 米田 宣和	福祉経営支援部・主事	橋井 順子	福祉経営支援部・臨時事務員	
地域福祉部・地域振興班	主 事 檜村 里佳	総務企画部付・主事			

SELP商品のご紹介

社会福祉法人 津山社会福祉事業会
津山ひかり学園 ひかりの丘



【お問い合わせ先】
津山ひかり学園 ひかりの丘
(じゃっぴ) あつまあれ
FT AX L 086812610841

- 商品名 ぽりぽりコーマスクん
- 価 格 100円(税込)
- 内容量 25グラム ●賞味期限 3週間
- 原材料 薄力粉・ココア・アーモンドプードル・バター
砂糖・卵・ホワイトチョコレート・チョコレール

ひかりの丘直営店「じゃっぴ あつまあれ」では、発酵バターやフランス産岩塩や自家栽培の野菜にこだわった、やさしい味わいの各種焼き菓子販売しています。

中でも、ホワイトチョコをサンドしたココアクッキー「ぽりぽりコーマスクん」は、愛くるしい表情とぽりぽり感が大人気の新商品です。

ご要望に応じての詰め合わせやラッピングもご用意できますので、ちよつとしたお使い物にいかがでしょうか。

車を運転するなら、万全の備えで!!

もしもの自動車事故による損害や傷害、トラブルを、自動車共済がしっかり補償します。

お問い合わせは

西日本自動車共済協同組合 岡山県支部
〒700-0927 岡山市北区西古松237-126 松本ビル3F
TEL086-246-3355 FAX086-246-3375

 **西日本自動車共済協同組合**

本部 〒812-0007 福岡市博多区東比恵 2-15-25 TEL : 092-441-5901 NJ73010060030999999-1206(2)5300



生活困窮者自立支援ネットワークフォーラム開催される
 〓いよいよ4月制度施行！行政、社協、社会福祉法人、NPO法人、
 民生委員等が集い、生活困窮者支援のあり方学び！

去る3月1日(日)、岡山ロイヤルホテルにおいて、県内外の行政、社協、福祉施設、NPO、民生委員等の関係者174名が参加し、生活困窮者自立支援法の施行を目前に、その理念・趣旨についての共通理解を図るとともに、複雑な経緯や背景を抱える生活困窮者の支援に必要な連携体制や具体的な支援の実際について学びました。

●行政説明「生活困窮者自立支援制度について」

厚生労働省社会・援護局地域福祉課
 生活困窮者自立支援室

室長 熊木正人氏

冒頭、厚生労働省熊木室長より、同制度の趣旨・理念の詳しい解説と支援対象者の定義について、事例を交えた説明がなされました。

また、行政の庁内連携や関係機関とのネットワークの必要性等、円滑な制度施行に向けたポイントについても述べられました。



●基調講演「いのち・すまい・けんりー貧困の現場から社会を変える」

NPO法人
 自立生活サポートセンター・もやい

理事 稲葉 剛氏

稲葉氏からは、長らくホームレス支援に取り組んできた活動者の立場から、生活困窮者を取り巻く厳しい現実の報告や現行の生活保護行政や生活困窮者自立支援制度の問題点の指摘がなされ、制度と

当事者の間のギャップの大きさについて問題提起がなされました。また、生活困窮者支援における「すまい」の確保(入居支援)の大切さと行政、民間、地域との連携の必要性を改めて言及されました。

●パネルディスカッション
 「岡山県における生活困窮者支援の最前線レポート」
 〓生活困窮者支援のネットワークについて考える〓

生活困窮者自立支援制度のモデル事業実施団体(岡山市寄り添いサポートセンター・石原氏、倉敷市生活自立相談支援センター・池田氏、総社市生活困窮支援センター・剣持氏)及び先駆的にホームレス支援に関わってきた岡山・ホームレス支援きずなの豊田氏からの具体的な実践報告をもとに、今後の行政内の関係各課の連携体制や関係機関のネットワークのあり方が議論されました。また、生活困窮者支援には、地域社会との連携が不可欠との共通認識が図られました。



社会福祉法人の **会計を完全フォロー!**

曲
 新会計基準
 移行支援

- 期首残高の移行はできていますか?
- 新しい科目での仕訳はできていますか?
- どの様式の決算書を作成するか理解できていますか?

罫
 記帳代行
 サービス

- 決算をしてみたまったく数字があわなかった
- やらないとだめなのはわかっているけど他の業務に追われて後回しに...

思い当たるあなたは今すぐ!

社福経営サポートクラブ

株式会社 創明コンサルティング・ブレイン
 SCB 公認会計士・税理士 宮崎 会計事務所

0120-747-824
 (受付時間) 9:00~17:30(平日)

ホームページ <http://www.ssc-scb.com>
 〒702-8002 岡山県岡山市中区桑野713番地10

私たちに
 ご相談
 ください!



SCB
 社福サポート
 担当
 じはら

「個から地域へ」
ミクロ実践とマクロ政策を連動させる福祉実践に向けて



2月21日(土)、(社)岡山県社会福祉士会、岡山県地域包括・在宅介護支援センター協議会と県協の3者共催で地域包括ケアシステムセミナーを開催しました。今回は、地域包括ケアシステムの中で必要とされている個別の課題から地域での課題を見つけ出して共有し、政策提言に向けてつなげていく実践を行うために、社会構造を学ぶというテーマで開催。

講師は、NPO法人ほっとプラスの代表理事・社会福祉士の藤田

孝典さん。ソーシャルワーカーとして、首都圏で生活困窮者支援を行いながら、生活保護や生活困窮者支援のあり方に関する活動と提言を積極的に行っている藤田さんからは、実践とともに、その実践から見えてきた課題をいかに社会に伝えていくのかを分かりやすく整理して教えていただきました。

特に、困っている人の状況を専門性を持って、解説し、生活保護などの必要な権利性を代弁し、それを福祉行政や社会に対して訴える必要性や、公的責任の所在が明確でない福祉行政について、政策に影響を与える活動を行う必要性などは、正に今求められている部分だと感じました。

藤田さんの言葉に「社会変革と政策提言なき福祉実践はしないほうがよい」がありました。県社協として、現場で行われているミクロの実践をマクロ政策につなげていくソーシャルアクションをしっかりと行っていきたいと考えます。

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償!!

平成27年度

ボランティア活動保険

全国200万人
加入!!

補償金額 (保険金額)

保険金の種類	プラン		
	Aプラン	Bプラン	
死亡保険金	1,200万円	1,800万円	
後遺障害保険金	1,200万円 (限度額)	1,800万円 (限度額)	
入院保険金日額	6,500円	10,000円	
ケガの補償 手術 保険金	入院中の手術	65,000円	100,000円
	外来の手術	32,500円	50,000円
通院保険金日額	4,000円	6,000円	
特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各補償金額(保険金額)に同じ		
葬祭費用保険金 (特定感染症)	300万円(限度額)		
賠償責任の補償 賠償責任 保険金	対人・対物共通	5億円 (限度額)	5億円 (限度額)

年間保険料

タイプ	プラン	
	Aプラン	Bプラン
基本タイプ	300円	450円
天災タイプ(※) (基本タイプ+地震・噴火・津波)	430円	650円

<http://www.fukushihoken.co.jp>

ふくしの保険

(※)天災タイプでは、天災(地震・噴火・津波)に起因する被保険者自身のケガを補償しますが、賠償責任の補償については、天災に起因する場合は対象になりません。

保険金をお支払いする主な例



ボランティア行事用保険

(普通傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償

(普通傷害保険)

福祉サービス総合補償

(普通傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険)

●お申込み、詳しい内容のお問い合わせは、あなたの地域の社会福祉協議会へ●

団体契約者 **社会福祉法人
全国社会福祉協議会**

(引受幹事保険会社) 損害保険ジャパン日本興亜株式会社
TEL:03(3593)6824

取扱代理店 **株式会社 福祉保険サービス**

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F
TEL:03(3581)4667 FAX:03(3581)4763
受付時間:平日の9:30~17:30(12/29~1/3を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

(SJNK14-16220 (2015.2.6))

現場からの発信



音楽×アート×障がい者福祉を コンセプトにした音楽フェス Good Bubble Fes 15 開催!!

先日、障害者福祉施設で働く、若手の福祉職員たちが実行委員となって、音楽フェスが開催されました。今回は、その模様を開催に至る経緯を踏まえて、お伝えします。

新しい福祉の3Kを！

3月14日(土)に岡山市内のお寺(蔭涼寺)で、岡山県内の若手福祉職員が実行委員となって主催した音楽フェス「GOOD BUBBLE FES 15」が開催されました。当日は、100人を超える参加者が訪れ、それぞれがライブやライブペイント、ワークショップを楽しんでいました。

主催メンバーは、「元々音楽が好きで、夏フェスなどによく行くけれど、そこでは自分が普段接している障がいを持った方はほとんど見ない。同じように楽しめる場が作りたいと思った。」と話していました。

最近岡山県内でも、こ



11/8 介護の日に行われたイベント風景
福祉職員や一般の方、若者等約100人が集まった。

うした福祉の枠にとらわれない、自由でユニークなイベントが増えてきています。元々、今回のメンバーが出会ったのも、昨年秋に、介護の日に合わせて行われた「TALK 福祉×エンターテインメント」という、廃校とゲストハウスを会場にして行われた福祉のトークイベントがきっかけでした。

この時のゲストは、今、全国で活躍しているNPO法人Ubdobe(ウブドベ)の岡勇樹さん他。岡さんは、福祉の新しい3Kとして「かっこいい、かわいい、けっこうおもしろい」を挙げて、医療福祉業界のイメージを変える刺激的なイベントを次々と仕掛けており、この日も盛り上がりました。

カフェで ライブ&福祉トーク



前夜祭は、市内のカフェで開催。写真は、ドラムサークルを体験する参加者。

今回のイベントは、2日間にかけて行われました。前夜祭イベントとして開催された「GOOD BUBBLE EVE」では、ライブの合間にトークイベントを挟み込んでライブを自当てにきたお客さんにも、福祉現場で働く職員が自身の考えや活動を紹介する時間を設けていました。この日は、福祉関係者より、メインのアーティストを観に来たお客さんの方が多かったようですが、皆さん楽し

んで参加していました。

施設を飛び出て、ライブハウスやカフェなど、一般の人がたくさんが集まる場所で、自分たちの取り組みを発信していくことは、福祉人材確保や、福祉の仕事をするための良い機会だと感じました。

グッドバブルフェス15 当日レポート!

翌3月14日(土)は、朝11時から16時までの昼間の時間帯に開催。少し天気が心配でしたが、見事に晴れ間がのぞき、会場は本当に素敵な空間でした。

フェスといえば、ライブですが、今回のライブアクトは、CMでも話題の弾き語りの女性シンガー「関取花」さんや「u.j.i.c(うじん)」さん、そしてNHKハートネットTVでも取り上げられた、ラッパーの「GOMESS」さん。10歳で広汎性発達障害と診断され、いじめ、ひきこもりを経験した彼を変えたのは、中学2年生のとき偶然出会ったラップ。自分の苦しみを言葉に変えて歌い続けているゴメスさんは、自閉症と共に生き

るラッパーとして注目のアーティスト。その場で即興でラップするフリースタイルと楽曲を織り交ぜたライブは、圧巻でした。



ラッパーの GOMESS(ゴメス)さん。自身の想いをラップでストレートに表現

ライブの間に、お客さんも参加できるドラムサークルや、ヨガの時間を設けて、「みんなで楽しむ」時間や「みんなで休む」時間を作り、体力のない人でもゆっくり楽しめるように工夫がされていました。会場はお寺ということもあり、広い休憩スペースも用意されており、小さいお子さん連れや、施設の利用者さんが、横になって休んでいる風景がちらほら見受けられました。



早島町にある「ぬかつくるところ」の利用者さんが書いた一言おみくじがひける「とだのま」のようなユニークな出店も。

今回のイベントは、福祉現場で働いている若い職員が主体で企画しており、自分たちが仕事で感じる問題を、楽しく伝える新しい「現場からの発信」だと感じました。ぜひ広がってほしい動きです。

■記事に関するお問い合わせ

(福)岡山県社会福祉協議会

地域福祉部

TEL 086-226-2835

このコーナーでは、本会の会員である施設・団体等で働く「ふくし」の仕事に携わる人たちの声を紹介していきます。

(福)久米南町社会福祉協議会

播磨倫子 さん
(はりまみちこ)

4年目
俳句の町 久米南町の若き社協ワーカー



①「ふくしの仕事」をはじめたきっかけは？

小学校2年のときに、一緒に住んでいた祖父が認知症になり、亡くなる直前まで一緒に暮らしました。当時はまだ認知症の理解も今のようではなかったこと、また祖父が家や地域が好きだったので地域で生活するために、家族が必死で支えてきた姿を幼い頃から見てきました。その経験から誰もが住み慣れた地域の中で生活できるようにサポートできる仕事がしたいと思ったことがきっかけです。

②今、主にどんな仕事をしていますか？

共同募金、歳末助け合い、ふれあいサロン、日常生活自立支援事業、福祉のまちづくり推進協議会、福祉委員、経理など、事務をする職員は局長と2人だけなので何でもしています。特に他の事業に比べ、ふれあいサロンの仕事は久米南町内の人と実際に関わることができるので、

学ぶことがとても多く、そしてやりがいを感じます。

③仕事を通じて体験した紹介したいエピソードがあれば教えてください

やはり、ふれあいサロンでの話です。今までふれあいサロンは話が主だったのですが、今は頭や体を使って遊びながら、だけど福祉も学ぶ参加型の講話を目指しています。特にアイスブレイクやゲームなど様々な工夫をしています。そして「今日のサロンに参加してよかった」と笑顔で言っていたけると嬉しいですし、「また頑張ろう！」という元気がもれます。

④休みの日の過ごし方は？

休みの日はしっかり遊んでいます。特にデイズニールランドが大好きで、毎年必ず行きます。デイズニールの魅力はおもてなしとサービスですかね。私も同じように皆さんに福祉のサービスを提供できたらなあと思います。

また他にもキャストさんの車いすの対応だったり、多目的トイレなどを見て、つい仕事のことを考えてしまいます。

⑤今後どんな仕事人になりたいですか？

久米南町は、少子高齢化が進んでいて、より地域福祉活動が必要になってくると思います。なので様々な世代の方とふれあうことや福祉委員活動の拡大など新しい企画に挑戦してみたいですね。久米南町で生活されている皆さんが地域の主役になれるような環境づくりをしていきたいと思っています。4年目になるので、もっと専門性を身に着けないといけないとも感じています。今は自分の仕事で一杯ですが、このインタビューの話を受けて、改めて福祉の仕事はどうして頑張ろうと思ったのかを思い出せたので、初心に戻って頑張りたいと思います。

編集後記

春は出会いの季節！人事異動が行われ、新しい仕事を覚えるのは大変だけれど、新しい出会いはちょっと楽しみ。今月、この機関紙に初めて出会われた読者の方もいらっしゃいますか？今年度も皆さんに関心を持っていただけるような機関紙作りに励んでまいりますので、よろしくお願いいたします。